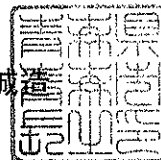




青市道建第 60 号  
平成 19 年 5 月 9 日

国土交通省道路局長 様

青森市長 佐々木 誠



中期的な計画の策定にあたっての意見について（回答）

平成 19 年 4 月 2 日付け国道第 114 号で依頼のありました標記の件につき  
ましては、別紙のとおりであります。

青森市都市整備部道路建設課  
国道・高規格対策チーム  
担当：櫻庭 TEL017-761-4271

## 中期的な計画の作成にあたっての意見

- 1 豪雪都市である本市においては、積雪による危険な通学路や交通渋滞、緊急車両の目的地までの移動時間増大など、冬期間の日々の生活に多大な影響を及ぼしている。これら生活環境を改善するための除排雪費用が膨大になり、財政的に大変苦慮しているところである。本市にとって除排雪事業こそが最大の課題である。

幹線の国道、県道の除排雪については道路特定財源が充てられているが、市道の除排雪作業は地方交付税で賄われることになっている。しかしながら、交付税改革により必要な財源が確保されない恐れがあることから、本市において生活する人々が、安全で安心して暮らせるよう除排雪作業に係る安定的な財源として道路特定財源の見直しの議論の中で配慮願いたい。

- 2 本市において、冬期間は積雪により2車線の道路が1車線となってしまう使い切れていない。今後の道づくりに当たっては、新しく造ることと併せ既存道路の機能を最大限有効に使いこなす「道づかい」への発想が必要である。

例えば、本市の中心市街地は戦災復興の区画整理事業により基盤整備がなされているが、周辺部では30、40年代の乱開発により狭い道路網の市街地が広がっており、防災面のみならず、除排雪も困難な状況となっている。そのため、こういう地域における都市計画道路の計画的整備を進めるとともに、現在くらしの道ゾーンとして進めている既存の生活道路を最大限活用する観点から電柱の移設事業も進めていくべきと考える。

- 3 青森県の三次医療施設は2箇所分散されており、これにアクセスする高規格道路も整備されていないことから、三次医療施設への60分カバー人口は84%と低く、また、冬期においては52%に低下する。夏期では救える命も、冬期では救えないことにもなりかねない。まさに、道路は「命の道」であり、1時間以内で高度な医療施設へたどり着ける「命の道」のネットワークの早急な整備が望まれる。